

2023年度

| | |
|--------------------|--|
| 科目名称 | 初等教育実習 |
| 授業コード | AI360 |
| 英語名称 | Practice Teaching for Elementary Education |
| 学期 | 2023年度後期 |
| 単位 | 4.0 |
| 担当教員 | 前嶋 深雪 (教育人間科学部), 大海 由佳 (教育人間科学部), 小湊 真衣 (教育人間科学部), 尾野 明美 (教育人間科学部), 望月 崇博 (教育人間科学部), 木村 龍平 (教育人間科学部), 梶井 正紀 (教育人間科学部), 藤井 志帆 (教育人間科学部) |
| 記入不要 ナンバリングコード | |
| 授業の概要 | この科目では、4週間(160時間)にわたる小学校での教育実習を行う。大学で学修した教科・教職に関する理論や知識・技能と、実習校での教育活動(教育実践)とを相互に関係させて、実地に学ぶことを目的とする。 |
| 科目に関連する実務経験と授業への活用 | 教育現場での経験を持つ者が中心となって、こども学科の教員全員で初等教育実習の指導に取り組んでいる。教育実習での巡回において行われる学生への個別指導には、こうした教師の現場経験が大いに役立っている。 |
| 到達目標 | 児童観察を踏まえた児童理解のもとで、学級経営、生徒指導にあたり、自分の指導観を深めていくことができる。 学習指導要領に基づき、教科の単元に即した教材研究ができる。 適切な指導観を反映した学習指導案を作成し、授業実践ができる。 これらを到達目標とすることにより、学科のディプロマポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身に付けること」をはじめとして、【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を有する教育者となることを目指す。 |
| 計画・内容 | 小学校において、4週間(160時間)の教育実習を行う。教育実習の内容は以下の通りである。 観察実習:児童の活動や実態、教諭の活動や指導の実態、評価・学級経営の方法、学級の実態、学校環境等を観察することにより、小学校教育への理解を深め、教育実践の参考とする。 参加実習:教諭の行う様々な教育活動に参加し、教諭としての役割を果たすために必要な態度・技能等を修得する。 授業研究と研究授業:授業観察を通じて、児童の実態の把握、教材研究の方法、指導案の作成の仕方、学習指導の形態など、授業研究に関する基本的なあり方について学び、その成果を研究授業へとつなぐことによって、実践力を高める。 |
| 授業の進め方 | ・実習校において、観察、授業実践、研究授業、その他の教育実践を行う。 ・大学の担当教員全員による巡回指導を行う。 |
| 能動的な学びの実施 | 実習校において、観察、授業実践、研究授業、その他の教育実践を行う。 |
| 授業時間外の学修 | 時間外の学習として、授業実習の準備、教育実習日誌への記録などを行う。 |
| 教科書・参考書 | 特になし。 |
| 成績評価方法と基準 | 実習への取り組みについての評価(60%)、実習校からの評価(40%)を基に、総合的に成績評価を行う。 |
| 課題等に対するフィードバック | 教育実習における実習校からの評価について、フィードバックを行う。 |

2023年度

| | |
|------------------------------------|---|
| オフィスアワー | CampusSquareを参照。 |
| 留意事項 | <ul style="list-style-type: none">・小学校教諭一種免許状取得のための必修科目である。・1年次より提示している「初等教育実習の履修条件」を満たした学生のみが、本科目を履修することができる。 |
| 非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」 | <p>授業の進め方 文部科学省より示される内容に依拠して判断する。</p> <p>成績評価方法と基準 実習への取り組みについて、総合的に成績評価を行う。</p> |